

" 絆 "

特集

R² 編集部からのメッセージ

編集部より皆様へ

こんにちは。とうとう花粉症の人達には厳しい季節がやってきました。花粉症は防ぎようがありませんが、予防のできる風邪の対策はしっかり行いたいですね。さて、今月のR²のテーマは「絆」です。

絆……家族・友人などの結びつきを、離れがたくつなぎとめているもの。[引用元:大辞林(三省堂)]
絆は皆さんの留学生生活を左右する、とても大切なものです。留学中に得たつながりはその場限りのものではなく、留学後も続くものなのです。ホストファミリーや友人達とのつながりがいかに大切なものか、ROTEX がそれぞれの想いを綴りました。

絆～ kizuna ～

日本から始まった絆

USA/2002

宇多川 薫

みなさんが留学を通して出会う友達は、派遣先だけではありません。今、出会っている同期や来日学生との出会いも貴重な機会であり、中にはずっと続く友人がいるかもしれません。私自身、派遣学生だった頃出会った来日学生と現在もつながりがある事に、とても嬉しく感じています。

しかし、せっかく出会えたのに、お互いに日本を離れなければならない。それが少し不思議だったのを覚えています。派遣学生だった頃、いつも来日学生に励まされていた気がします。当たり前のようにこなしている日本語のスピーチや、会話の中で、日本という異文化の中で生活している彼らを見る時、一緒に遊んでいるだけでも、どこか勇気をもらっていたと思います。そして、先日友人を訪ねに韓国へ行ってきました。会話は当時と変わらず日本語で。相変わらず上手に話すことや、一緒に笑える事に驚くけれど、同時に「頑張らなくちゃな」と鼓舞されます。尊敬する友人と出会えたことは、一生の宝物です。

派遣学生の頃からの大切な先輩や友人がいます。派遣先で出会った家族や友人がいます。Rotex になってから

は多くの後輩に恵まれ、新しい出会いもありました。

絆

様々な人に支えられているこの繋がりをそう呼んでみてもいいのかもしれない。

人との繋がり＝絆

大沼 恵理



USA/2006

私が留学生活を送ったのはたった1年間です。細かく言えば、365日に満たない日数です。留学期間がたった1年間であることは出発前にはちゃんと理解していました。だからこそ、人との繋がりを重要視していませんでしたし、期待もしていませんでした。

しかし今留学を振り返ってみて思うのは、私にとって最も大きな留学での気づきの一つが、「人との繋がり」の大切さであったということです。留学初期、『ああ私はここで1人なんだ。誰も私を知らないんだ。』と強く感じ、寂しく悲しくなることがよくありました。新しい関係を築いていくことは容易いことではありませんでした。ですが、そんな環境があったからこそ、HFと、学校の人々と、そして留学生友達との繋がりが大切に思えました。人を信頼したり、信頼しようとしたり、友好的な関係を築こうと努力することの大切さに気づくことができました。

たった1年でした。ですが、その1年の中での人との繋がり、絆を築こうとした努力は、結果、留学後も続くかけがえのない繋がりを私に残してくれました。1年に満たない付き合いであったにも関わらず、留学中に築いた繋がりは今の私の考え方や生き方に大きな影響を与えています。この繋がりを持つことができたということも、私が自信を持って留学してよかったと言うことのできる大きな理由です。

ホストファミリーとロータリークラブとの絆

石垣静香



AUSTRALIA/2006

留学が決定して早くも4か月が経ちました。ロータリーの交換学生としてオリエンテーションやROTEX行事・懇談会等、留学への道を一步ずつ進んでいますが、まだロータリー交換学生としての留学というものが具体的にどのようなものかわからない人も多いのではないのでしょうか。

留学は人とのコミュニケーションが必要不可欠です。現地では学校の友達・先生、家族、地域の人々など様々な人との出会いがあり、コミュニケーションを図ることで互いに絆を深めることができると私は思います。しかし目に見えない『絆』を確かめるのは難しく、私が留学中に築いた『絆』に気づいたのは昨年1年ぶりに再

度オーストラリアへ行った時でした。

前回オーストラリアへ行ったのは自分の意志であり、ロータリーの交換学生としてオーストラリアへ来た時とは異なると想像していました。しかし私は滞在中ホストファミリーのお家でお世話になり、突然の訪問であったのにも関わらずホストクラブの例会にも参加させて頂きました。さらに例会ではスピーチをする機会も頂き、私が留学していた時のことをもう一度みんなで振り返ることができました。

1年ぶりの再会でありながら留学当時のように親しく現地の人と交流し、またホストファミリーと一緒に時間を共にすることができ、私はとても1年間オーストラリアに居なかったとは思えませんでした。このように私を再度迎えてくれたのは、ホストファミリー・ホストロータリークラブとの間に『絆』があったからであると私は思います。上記でも述べたように留学ではコミュニケーションが必要不可欠であり、私が留学中ホストファミリーと過ごす時間を多く取り、ホストロータリークラブの例会には毎回出席したことが『絆』を築き上げたのではないかと思います。最後になりましたが、『絆』を築き上げることはロータリー交換学生として現地に派遣される一つの課題であり、その『絆』がロータリー交換学生の責務である派遣国との架け橋へと導いてくれると私は思います。

恩人との絆

平井貴史



FRANCE/2005

私の通っていた学校には日本語の授業があったこともあって、比較的友達は作りやすい環境にありました。それでも、2月の初めまではほとんどの人が学校だけの付き合いでした。留学仲間と出会ったのは1月だし、遠くて会いにいけないので、学校の友達が主でした。ですから、もっと早い時期に自分からアプローチすればよかったな、と思います。

交友の幅が広がったのは、ある友達がMSN メッセンジャーで話しかけてきてくれたのがきっかけです。それから、私はいろんな人から携帯電話やフリーメールのアドレスを聞いて、学校以外でも会うようになりました。その彼は一番の親友です。もしかすると、全ての友人の中で一番の親友かもしれません。

日本において、私は小中高でよく遊ぶ友人が必ずいました。みなさんにも、それぞれで気の合う友人がいたのではないのでしょうか。それは海外でも例外ではなく、どんな世界にも意気投合できる人はきっといるはず。言葉の壁があっても、気の合う人は一緒になるものです。

私は、フランスでたくさんの絆をつくれましたが、やり残したこともたくさんあります。連絡先を聞きそびれたまま別れてしまった人もいます。別れを言いそびれてしまった人もいます。「いつまでも明日があると思うな。明日野郎はバカ野郎だ。」と、あるドラマで聞いた言葉が胸に刺さりました。そういうこともあって、「仲良くなった人の連絡先は聞く」「大学生のうちしかできないことをやり尽す」を心がけ、日々の生活を送っています。みなさんは悔いのないよう、留学中にしかできないことをやり尽してください。

「絆」は、私が留学生活で手に入れた最高の宝物です。そして、出会った人全てが私の恩人です。思い返すと、「1人1人、すべての人と出会えたから、あの充実した留学だったんだ」と思います。1つ1つの出会いを大切に、たくさんの絆をつくってください。彼らはみなさんの一生の宝物であり、みなさんの帰るべきところでもあります。

絆の作り方



KOREA/2005

杉岡美季

私の通っていた学校には日本語の授業があったこともあって、比較的友達は作りやすい環境にありました。それでも、2月の初めまではほとんどの人が学校だけの付き合いでした。留学仲間と出会ったのは1月だし、遠くて会いにいけなかったので、学校の友達が主でした。ですから、もっと早い時期に自分からアプローチすればよかったな、と思います。

絆とは料理に似ていると私は思います。つくる過程は曖昧で、塩を足したり、砂糖を足したり、水で薄めたり、隠し味をつけたり（中には私とは違ってレシピ通り正確にお料理する人もいるかもしれませんがね）結局、何をどうしたらおいしい料理が出来上がったのかは覚えていないものです。でもひとつだけ確実なことがあります。それは「おいしくなあれ」と念じながら作ることです。

私は留学している1年間で、素敵な友人たちと出会いました。その友人たちとは、どんなに離れている時間が長くても、再会したときはいつも「先週も学校で会っていたみたいだね」と笑いあいます。1年、2年と全く顔を合わせない間も私たちは留学中に築くことのできた絆のおかげで結ばれています。

では、私がどのようにして絆を築いてきたのか、それは先ほどお話した料理と同じです。最初はほとんど話も通じなかった私たちですが、常に「この子たちと仲良くなりたい」「もっともっと仲良くなっているいろんな話をしたい」と心の中で強く思いながら、塩を加えたり、砂糖を加えたりしました。その結果、見事おいしい料理ではなく、「絆」をつくりあげることができました。

みなさんも、絆をつくる過程を楽しんでください。あなたの思いはきっと伝わりますよ。いつか「あ、絆で結ばれてるんだな」と気づく日がきっときます。

R²編集部からの

メッセージ

今月号をもって、R²編集部のメンバーが変わります。そこで最後に、現在の編集部のメンバーが皆さんにメッセージを送ります。R²編集部は Director, Editor, Supporter(2名) というメンバー構成で成り立っています。4人が最後にそれぞれの思いをつづりました。



R² : Supporter

R²が支えてくれた

大沼 恵理

派遣学生のみなさん、R²を楽しんで読んで読んでいますか？私が派遣候補学生であったとき、毎回のオリエンテーションでいただくR²をととても楽しみにしていました。お土産には何がいいかといった留学準備にしても、留学に対する心構えにしても、同じROTARY 青少年交換プログラムで留学した先輩方のアドバイスやメッセージは参考になりましたし、何より留学という特別な経験をされた方々の話は興味深く、私の留学へのイメージを膨らませてくれました。

しかしながら、私にとってR²のありがたさを一番感じたのは、他でもない留学中でした。留学初期、語学の問題、自分の性格の問題、ホームシック、対人関係等々で私は苦しくて寂しくて仕方がありませんでした。自分が想像していた留學生活とは異なり、誰の留学も楽しいだけではないとは覚悟して、理解していたつもりでも、『なんで自分だけ…』と感じてしまっていたことは嘘ではありません。そんなとき、R²を読み返してみると、先輩方も留学中同じような経験をしていたことに気付きます。記事を読むと、『ああ、苦しいのは自分だけではないんだ』と安心した気持ちが込み上げ、このままではダメだと立ち上がることができました。そして記事には、先輩方はどうやってこの苦しい状況を乗り越えたのかの体験談、どうしたら状況を改善できるのかのアドバイスといった、留学中の今欲しい情報が、そして欲しい言葉がそこにはありました。

ぜひ留学中、またR²を読み返してみてください。留学中のあなたに必要な情報を見つけだすことができるかもしれません。苦しい時、壁にぶつかったとき、私のようにあなたを支えてくれるメッセージを得られるかもしれません。

何故だか私の書く記事はネガティブなものばかりですが、留学生として過ごしたあの一年は今まで生きてきた中で一番楽しく、貴重な時間でした。ぜひみなさんも、あなただけの特別なストーリーを、派遣先で作り上げてきてくださいね。帰国後みなさんのその話の数々を聞くことが、今からとても楽しみです。

リアルな留学情報誌、R²

立入朗人



R² : Supporter

今から4年前、僕がまだ派遣候補生だった頃にR²は創刊されました。つまり僕らの代はR²を最初に受け取った学生なのです。あの頃は毎回オリエンテーションで次のR²をもらうのが楽しみで仕方ありませんでした。

本屋さんで売っている留学本などに書かれたありふれた情報と違い、R²に書かれた情報は留学のリアルな姿を知ることができる唯一の情報源です。派遣前にも何度も読み返していましたが、派遣先にもR²を持って行って行き詰った時などに読み返していました。

そして今、僕はR²を読む側から作る側に立場が変わりました。作る側に来てみて初めて、R²を作ることの大変さを知りました。実際に企画をして作成するまでに、記事を書いて協力してくれる人もたくさん必要だし、時間もかかります。でもそこまでして作る価値のあるものだから、僕たちはこうして毎月皆さんにこれを手渡しています。これからも、R²は本屋さんで売っているものには決して書かれていないような情報を皆さんに伝えられるように頑張っていきたいと思っています。お楽しみに！

異なる個となり、事を成せ

石渡雅大



R² : Editor

3月となり、日本では様々な転機の訪れとなります。それは進学、進級、就職など形となって訪れるものもあれば、春の訪れとともに心境の変化も訪れることでしょう。この一年間、私はR²の編集者として、学生の皆様に渡されるR²を形ある物にしてきました。学生たちへ、しっかりと印象に残るようにという思いを込めてR²通信やレイアウト構成などを勤めてきました。情報誌R²というのは形のあるものですが、私たちR²が求めることは形のない物です。それは学生皆の心境の変化です。先輩方のメッセージを読んでもらうことで学生たちに留学に対する心境の変化が生まれると期待しています。

さて、私が学生の皆へ送る言葉として「異なる個となり、事を成せ」という言葉を贈りたいと思います。この言葉は受け売りです。ただ、この言葉は留学をする皆にとっても当てはまっていると思ったのでこの言葉にしました。この言葉は双日という会社の社長が学生に向けて発した言葉です。私自身この春で人生において大きな転機

を迎えようと努力をしている最中です。そんな中出会ったこの言葉は私にとってとても貴重な言葉となりました。

「新しい価値を創造するためには、常識にとらわれない自由な発想とともに、周囲に流されない、＜異なる個＞として存在することが大切となる。だがそれは、決して一匹狼になることではない。夢を追い続け、＜事を成す＞ためには、周りのたくさんの人たちの協力を得ることが不可欠であり、そのためには何より、皆から信頼される人間、皆の心を動かすことのできる人間になることが求められるからだ。」(双日 Web サイトより引用)

皆は一人一人にしかない皆の経験を積んでいます。たとえ双子の兄弟といっても同じ経験を積むわけではありません。違った目線、異なる価値観があり、結果として顔は似ていても異なる強み、異なる力を持ちます。このように私たちは異なる個として存在しているのです。夏からは派遣学生の皆は派遣先に向けて飛び立って行きます。私たち R2 では先輩方の体験を学生たちに伝えていますが彼らはあくまで例でしかありません。これから経験することは皆しか経験ができないの事です。あなた自身が考えあなた自身が行動し、あなた自身によって結果を得ると思います。それこそが異なる個となり、事を成せという真意だと私は思っています。皆自身の考えとは何なのか。整理して、そして行動に移していきましょう。私たち ROTEX はそれを心より願うとともに支えていきます。何か少しでも ROTEX より盗み出して自分の力にしていってください。

R² の活用法

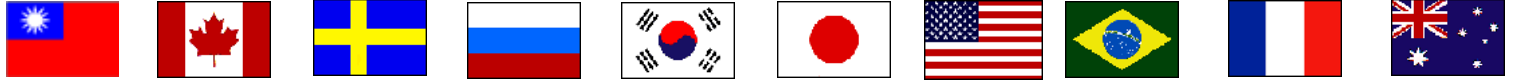


R² : Director

杉岡美季

みなさん、こんにちは。突然ですがみなさん、ハイテクな道具が溢れているこの現代社会で、R² がなぜ紙なのかご存知ですか？早速ですが答えをお教えします。なぜなら、R² は Rotex からみんなへ送る「ラブレター」だからです。R² には、派遣学生のみんなが「楽しくて充実した 1 年間を過ごしてほしい」という Rotex からの熱い思いがたくさん、たくさん詰まっています。毎月ラブレターをもらっているんだと考えると、すごく嬉しくないですか？その嬉しい、楽しい、わくわくするという気持ちを留学準備期間中や、留学中も忘れずにいてください。派遣先にファイリングした R2 を持って行ってください。

もし悩みができたり、最近では当初のようなわくわくがないなあなんて感じたら、ぜひ読み返してみてください。そこにはきっとあなたが求める何かが、もしくはそのヒントが隠されているかもしれません。載っているアドレスにメールを送ってみるのもいいですね。すべての Rotex もかつて、今のみんなと同じ立場に立たされていた、いわば先輩です。後輩に連絡をもらって、頼られて嬉しくないわけがありません。弱音を吐いたって、愚痴をこぼしたって、受け止めます。これからも Rotex はみんなに熱い思いを伝え続けていきます。次号も楽しみに待っていてくださいね。



R²は当 2780 地区多くの ROTEX の方々、
ガバナー事務所の協力を基に発行されています。
多大なる尽力に感謝いたします。

R² 編集長：杉岡 美季
(2005 年度韓国派遣)



R² 編集部通信

今回は絆について ROTEX から様々な体験談を書いていただきました。特に派遣先での人との絆は、留学中よりも留学後にひしひしとを感じる気がします。そしてそれを感じた時、留学がいかに素晴らしいものかと実感できるのです。皆さんにも留学を通じて絆の素晴らしさを感じてもらいたいと思います。

DIRECTOR : MIKI SUGIOKA

EDITOR : MASAHIRO ISHIWATA

SUPPORTER : ERI OHNUMA

AKITO TACHIIRI

Copyrighting©2005-2009

RIDistrict2780ROTEX All rights reserved